

Title	第五回大会記事
Author(s)	
Citation	弘前大学國史研究. 35, 1964, p.59-60
Issue Date	1964-06-30
URL	http://hdl.handle.net/10129/2722
Rights	
Text version	publ isher



<http://repository.ul.hirosaki-u.ac.jp/dspace/>

第五回大会記事

会告

本会の才五回大会は、さる昭和三十九年五月三日、弘前大学文学部会議室を会場として開催された。今回は準備の都合もあり、また本会創立十周年記念事業計画の審議に重点を置く必要もあつて、研究発表会を取り止め、総会と懇親会とのみを行った。総会には会員の過半数の出席を得たが、議事は次の通りである。

- 1 庶務報告（承認）
- 2 会計報告（承認）
- 3 会費および誌代の件（決定）
- 4 本会創立十周年記念事業の件（決定）

総会終了後、窓外の春光に映える桜をながめつゝ、佐藤仁会員の名司会によつて懇親会にうつつたが、北海道・秋田県・宮城県からの参会者もあつて、話題の花も彩を競つたようである。

なお、総会の議事の中、3と4とについては、以下の会告を参照されたい。

(1) 会費・誌代について

才五回大会総会の決定に従い、この度、従来の誌代を中心とした会費制度を変更し、会費と誌代との二本立てとすることになりました。会費は年額二〇〇円で、本年より実施致します。また誌代は当分の間、通常号一部一五〇円（送料不要）と致します。従つて、年四回刊行として、会員の負担額は年八〇〇円となり、年向で二〇〇円の値上げとなりますが、これは諸物価の値上げと庶務・会計事務の円滑をはかるために外なりません。御協力を御願致します。

なお学生会員は会の実務の面で奉仕して貰つていますので、会費のみを免除致します。

(2) 創立十周年記念事業について

本会は昭和三十一年九月に発足致しました。従つて、昭和四十一年秋には創立満十周年をむかへることになります。そこで、これを記念して有意義な事業を行いたいという希望が、会員の中から

おこり、種々検討の結果、学術的な団体として、また地域的な団体としてふさわしい事業、会員の力によって可能な事業ということで、次のような記念事業の大綱が才五回大会総会で決定されました。

① 仮称『津軽史研究入門』の刊行

津軽地方史の研究上必須の史料の解説その他便覧的なものを編纂して、広く全国の研究者の便をはかるもの（B6版三〇〇ページ）

② 仮称『青森県の歴史』の刊行

中学校における社会科歴史の学習で、郷土の歴史を全体の発展の中に正しく認識させる手がかりとしての、中学二・三年生を対象とする副読本（A5版一五〇ページ）

③ 右二書とも昭和四十一年度中に刊行する。

④ 本年六・七月頃までに弘前附近在住の会員中より委員を送んで、編集委員会を作り、具體的な企画と編集を開始する。

⑤ 編集に必要な経費は会員よりの拠出（一口千円）を以てあてる。

以上の通りでありますので、何卒会員諸賢の積

極的な御協力を御願ひ申し上げます。なお、右の中の④と⑤につきましては、その後の進捗状況とともに、近く改めて御通知致します。